

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国歴史教育研究協議会

(代表者 高野 修一 会員数 約16,200人)

T E L 042-582-2511

1 前文

『令和8年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針』(以下、『共通テスト問題作成方針』)には、「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程を重視する、用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、歴史的な見方・考え方を働かせながら、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解を伴った知識を活用して、例えば、教科書等で扱われていない資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や、仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。」と記載がある。その方針に基づき、出題内容も知識を活用して資料を読み解きながら解答を導くことを求めるなどの工夫がなされ、全体的に思考力を問う設問のモデルとなるものである。

以下、今年度の「歴史総合」と「世界史探究」の共通テスト本試験について、限られた紙面の中ではあるが、今後の御検討の一助になることを期待して、本協議会の意見と評価を記す。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

今年度の共通テストは、前年度と同様、大問数5問、小問数は32問であった。歴史総合からの出題となった第1問が小問数8問で配点25点、第2問から第5問が小問数24問で配点75点であった。

歴史総合分野から出題された大問1の出題は、「近代化と私たち」に関する出題が4問、「大衆化と私たち」に関する出題が3問、「グローバル化と私たち」に関する出題が1問であった。地域別に見ると、アジアに関する出題が地域をまたぐ出題を含めて7問(そのうち、日本に関する出題は地域をまたぐ出題を含めて3問)、ヨーロッパに関する出題は地域をまたぐ出題を含めて2問、アフリカおよび南北アメリカ、オセアニアに関する出題はなく、複数の地域をまたぐ問題は1問あった。大問2以降の世界史探究では、他の時代とまたがる出題を含めて、古代(5世紀以前)に関する出題が4問、中世(5世紀～14世紀)に関する出題は6問、近世(15世紀～17世紀)に関する出題が5問、近代(18世紀～19世紀)に関する出題が6問、現代(20世紀以降)に関する出題が4問、複数の時代にまたがる出題が4問であった。昨年度と比較して、古代及び近世に関する出題が増加し、出題される時代の偏りは解消傾向にある。地域別に見ると、他の地域とまたがる出題を含めて、アジアに関する出題が10問、アフリカに関する出題が2問、ヨーロッパに関する出題が11問、南北アメリカに関する出題が1問、複数の地域をまたぐ問題が5問だった。昨年度と比較してヨーロッパに関する出題が増加したことで、出題地域については昨年度以上に偏重傾向にあった。

出題形式で見ると、肢文の中から正文を選ぶものが9問、誤文を選ぶ問題が2問、資料の内容と内容に関連する知識の組合せを選ぶものが3問、正誤判断を伴うものが6問、会話文等の空欄補充を伴うものが9問、年代の配列に関するものが2問であった。また、地図やグラフを活用して解答するものが10問であった。さらに、すべての大問で史料文、地図、表、文献や図版などの資料が提示されており、それらの資料の内容を読み取って解答する問題は22問であった。この点は、『共通テスト問題作成方針』第4－出題教科・

科目の問題作成の方針の中にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する」を反映した出題だと言える。

本報告では、『共通テスト問題作成方針』の第1－問題作成の基本的な考え方にある「大学への入学志願者が高等学校教育の成果として身に付けた，知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題」となっているか，第4－出題教科・科目の問題作成の方針の「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する」となっているかの主に2点に基づいて，具体的に検討する。

第1問「近現代における都市の変容」

Aは，フランス第二帝政下で行われたパリの都市改造についての近代化に関する出題。

問1 3つの資料の内容から読み取ったことと歴史的知識をふまえて正文を選択する問題である。

問2 フランス第二帝政下で起きた出来事について正誤を判断する問題。選択肢「あ」は，四国艦隊下関砲撃事件（下関戦争），選択肢「い」は，サイクス＝ピコ協定の説明となっており，同時代の出来事を地域横断的に正しく理解しているかを問う問題である。

問3 江戸・東京における都市構造の変化に関して誤文を選択する問題。選択肢①の「南海路や東廻り航路」は歴史総合の教科書本文中には記載がない語句であるため，正誤を判定することはやや難しい。選択肢④の「文化住宅」は昨年度の「モダンガール」から2年連続で大項目「国際秩序の変化と大衆化」の日本における文化的側面からの出題である。

問4 グラフの読み取りと歴史的知識を問う問題。「列島改造」は歴史総合の教科書では扱われていない用語である。

Bは，植民地化されたアジアの都市をテーマにした会話文にもとづいた「大衆化」または「グローバル化」に関する出題。

問5 植民地時代の東南アジア諸地域に関する基本的な知識を問う問題。正文である③のビルマに対するイギリスの支配体制に関する記述の記載がない歴史総合の教科書があるため，解答するのが難しい問題である。

問6 1930年代半ばの朝鮮・京城中心部についてまとめたパネル2の読み取りと時代観を問う問題。「三・一独立運動」の時代観を理解しているかが問われている。

問7 第二次世界大戦後の香港の経済発展について，1950年代に着目したノート2の空欄を歴史的知識と読解力を生かして補充する問題で，基礎的な知識を問う出題である。

問8 1880年代のサイゴン，1930年代の京城，1950年代の香港の住民構成のグラフを読み取ったメモの正誤判定問題。A，Bで扱われているノートやパネルの内容を踏まえて解答する。

第2問「世界史上の法のあり方とその運用の歴史」

Aは，中国唐代の法に関する出題。

問1 中国唐代の裁判の模擬問答について書かれている資料1，2を踏まえた会話文の空所補充と資料2の解釈を問う問題。X，Yの判別には資料2に対する資料読解の技能が問われており，歴史的思考力を問う問題である。

問2 唐代の官僚に関する正文を選択する問題。各時代の官僚の特徴について基礎的な知識を問う問題である。

Bは，中世ヨーロッパにおける慣習法に関する出題。

問3 13世紀フランス北部で書かれた農村社会に関する資料3，4をふまえた会話文の空欄補充と下線部aの発言の根拠を表している図を選択する問題。空欄補充は基礎的な知識を問う問題であるが，図の選択は，考察部分から資料を読み取り選択する問題である。

- 問4 資料4の内容に関する正文を選択する問題。資料読解の技能を問う問題である。
Cは、19世紀末のイスラーム圏での裁判事例に関する出題。
- 問5 地図について説明したパネルの空欄補充問題。帝国主義下でのアフリカ分割における各地域の宗主国について地理的な知識を把握しているかどうかが問われた。
- 問6 資料5,6の内容と、考察したメモの正誤を判断する問題。資料の内容を通して歴史的思考力を問う問題である。
- 問7 古代ローマの法に関する資料7を踏まえたノートの空欄補充問題。空欄オは歴史的知識を問う基本的な問題だが、空欄カはA, B, Cそれぞれの資料の内容を踏まえ答える問題であるため、第2問で示されている資料等の内容を把握しておく必要がある。

第3問 「歴史に触れるきっかけ、歴史を伝える手段」

- Aは、フランス革命を描いたマンガ（『ベルサイユのばら』）に関する出題。
- 問1 フランス革命期の歴史的事象について年代を並び替える問題。基礎的な問題である。
- 問2 会話文中の下線部 a の具体的事例と会話文中の空欄補充についての問題。フランス革命で女性が果たした役割についての出題であり、ジェンダー史の視点が取り入れられており、多角的な視点による出題である。
- Bは、絵画や風刺画をテーマにした先生と生徒の会話にもとづいた出題。
- 問3 「文字と文章」による史料について誤文を選択する基本的な歴史的知識を問う問題である。
- 問4 会話文及び図3,4に関連する歴史的知識について説明した正文を選択する問題。基礎的な知識を問う問題である。
- Cは、カザフスタンの都市アルマティにある女性兵士像に関する出題。
- 問5 パネルのグラフから読み取れる内容とその背景に関する文の正しい組合せを選択する問題。世界恐慌直後、工業生産指数が上昇していたとされるソ連における社会主義の負の側面に焦点を当てた問題で、多角的な視点に基づく出題である。
- 問6 パネルの内容を踏まえた知識問題。パネル内に書かれている歴史的事象の背景に関する理解を問う問題である。

第4問 「歴史上に見られた様々な『帝国』」

- Aは、古代ローマに関する世界史探究の授業における会話をもとにした出題。
- 問1 会話文の空欄補充と資料2の読解内容を問う問題。インペリウムという語句がカエサル这个时代から使用されていたことを会話文から読み取る問題で、教科書等で触れられていない学説について、資料の内容や会話文から考察させる出題となっており、思考力を問う良問である。
- 問2 図I,IIと資料2が書かれた時期を特定し年代順に並び替える問題。各王朝や帝国支配領域について、歴史的事象との関係性を踏まえ地理的な知識を活用して解く問題である。
- Bは、ムガル帝国期の資料に関する会話文をもとにした出題。
- 問3 アウラングゼーブの治世下に関して、基礎的な知識を問う問題である。
- 問4 資料内に記述されている「シュリーナートジー」という神と会話文に登場する「シャー=ジャハーンの長男」に関する背景知識を問う問題である。
- Cは、19世紀末のキューバ独立運動の指導者ホセ=マルティの論説とそれに関する会話文をもとにした出題。
- 問5 会話文の空欄補充と米西戦争でアメリカ合衆国が獲得した領地を問う問題。初見の資料の内容をよく読んで選択する必要があるため、歴史的思考力を問う良問と言える。

問6 第4問のテーマ「歴史上に見られた様々な『帝国』」のあり方について生徒が考察してまとめたメモの内容の正誤を問う問題。歴史的事象の類似性を問う問題である。

第5問 「税制度と社会変容」

問1 明清時代の中国の税制度に関する基礎知識を問う問題。基礎的な知識と資料読解の融合問題である。

問2 オスマン帝国の税制に関する会話文の空欄補充問題。基礎的な知識と歴史的思考力を問う問題である。

問3 ドイツ関税同盟結成のきっかけとなるリストの請願書である資料2の内容を読み取り、同様の事例との組合せを選択する問題。初見の資料からリストが保護貿易を主張していること、保護貿易が南北戦争のアメリカ北部で主張されていたことと結び付ける問題で、基礎的な知識と歴史的思考力を問う問題である。

問4 GATTの条文である資料3の内容についての考察をまとめたノートの空欄補充問題。基礎的な知識を問う問題である。

問5 クビライの治世の税制に関する資料4と高麗の税制に関する会話文をまとめた資料5の両資料と第5問で扱われた資料とパネルの内容を総合して考察する問題。初見の複数の資料や視点をふまえて考察する、歴史的思考力を問う問題である。

3 総評・まとめ

『共通テスト問題作成方針』の第1-問題作成の基本的な考え方で示されている「大学への入学志願者が高等学校教育の成果として身に付けた、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う」という出題目的について、出題された知識は、基本的な知識がほとんどで、高校の授業内容に即した出題と言える。第2問以降の出題(24問)を分析すると、高等学校で学習した知識で解答できる問題が9問、資料の読み解きなど、読解力を必要とする問題が22問、図やグラフを読み解く問題が2問となっている。この点は昨年度と概ね同様だったが、文字資料の読解を必要とする出題は11問で、昨年に比べて5問多く、基礎的な知識問題などと組み合わせて資料読解の内容を問う問題が8問で、昨年度に比べて2問増加している。また今年度掲載された計26点の資料のうち、文字資料は16点で、文字資料の掲載数自体が増加している。このことから現行の学習指導要領への移行後、2度目となった本年度の出題は、『共通テスト問題作成方針』の第4にある「歴史に関わる事象や多面的・多角的に考察、構想する過程を重視する」や「教科書等で扱われていない資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や、仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題」という出題傾向は一層強まっている。

平均点の変化については旧課程『世界史B』との参考比較も含め直近3年間の平均点が、令和6年度の60.28点、令和7年度の66.12点に対して本年度は、60.88点となっており、一昨年度の平均点と概ね同様となっているため、その難易度は許容範囲と言える。昨年度より平均点が下がった理由としては、前述したような文字資料の数と、資料読解をふまえた組合せ問題の出題が増加したことが挙げられる。一方、昨年度指摘した知識軽視の出題傾向は、基礎的な知識を問う問題が昨年度に比べて3問増加したことで改善傾向にあり、知識・理解と思考力・判断力・表現力等の双方を問う問題になりつつある。

また、昨年度指摘した他科目との平均点の差であるが、『歴史総合、日本史探究』(平均点62.29点)、『地理総合、地理探究』(61.87点)と同じ地歴科目との平均点の差は3点差以内となっており、科目間の平均点の差異も改善されている。両科目の歴史総合分野(大問1)では、資料読解も多く扱われており、この点からも基礎的な知識の差による得点差が生じにくかったと考えられる。さらに、両科目における歴史総合分野(大問1)において出題された時代の差異についても解消されてきている。これらの点からも本年度の

『歴史総合、世界史探究』は全体を通して良問だったと言える。

4 今後の共通テストへの要望

「歴史総合」が出題されるようになり2年目を迎えた。昨年も指摘させていただいたが、歴史総合の教科書は世界史探究の教科書以上に記述内容の差が大きい。そのため、学んだ教科書によって不利・有利が生じることがないように、出題の際には、用語の厳選など一層のご配慮を願いたい。今年度の出題は昨年度同様、基礎的な知識を問う問題であっても読み解きを求める工夫がなされるなど、全体的に思考力を問う形式であった。これは『共通テスト問題作成方針』の地理歴史に明示されている、教科書等で扱われていない資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題、仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題を出題する、という方針が反映されている。

しかしながら、こうした歴史的な考察に関しては本来十分な時間を費やしてなされるべきものであり、時間に追われる中で考察をするべきものではない。また、例年、本研究会が指摘している文字数については、約15000字で昨年度とほぼ変化はないものの、その多さの改善はされていない。受験者の歴史的思考力を適切に図るためにも、より一層問題を厳選し、思考をめぐらせる時間を確保していくことをご検討いただきたい。次年度以降も、高等学校での歴史総合、世界史探究における学習内容が反映され、受験者の歴史に関する興味・関心を刺激し、知的好奇心が高まる問題作成を期待している。

最後に、問題作成という重責を担われご尽力なされた方々に、心からの感謝を申し上げ、本報告の結びとする。